

管状電気炉(二連式)

高温燃焼設備

型式 MODEL

1091-II (吉田製作所製)

原理 PRINCIPLE

- ・ 硫黄、塩素、水銀、臭素等の分析のための焼成前処理設備として、酸素気流中で試料を高温加熱し、目的成分を(酸化)気化した後、吸収液で捕集する。
- ・ 窒素気流中で試料を任意の温度まで加熱し、揮発分をとばす。 等

仕様 SPECIFICATION

使用温度	Max1350℃ (プログラム昇温可)
発熱体	SiC A12-2A 8本
炉芯管	HB管φ42×φ35×L465mm 2本

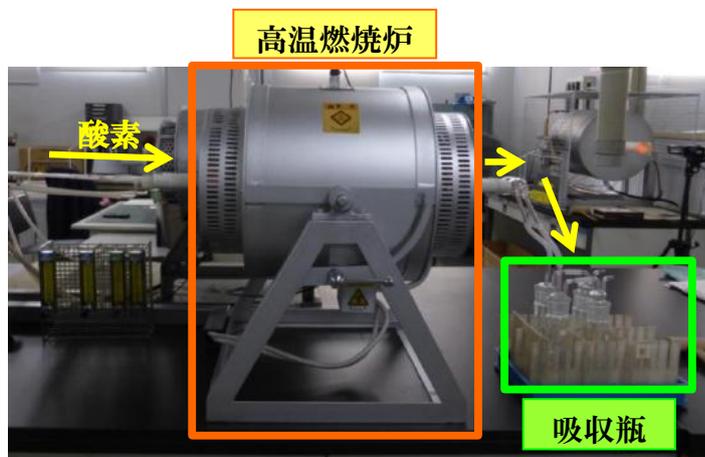
事例 APPLICATION

過去実績

石炭、コークス、活性炭、加炭材、プラスチック、顔料、油、触媒、RDF、スラグ、フィルム 等

全硫黄測定 JIS M 8813 (例)

酸素気流中で試料を1350℃に加熱し、全硫黄を酸化気化し、過酸化水素水に捕集する。その後、捕集液を水酸化ナトリウム標準液で滴定し、全硫黄の濃度を求める。



【石炭分析の定量下限】 試料質量0.5g

- ◆ 高温燃焼-滴定法 (JIS M 8813準拠)
S : 0.02 mass%
- ◆ 高温燃焼-イオンクロマトグラフ法
S : 50mg/kg (0.005mass%)
Cl : 50mg/kg (0.005mass%)

※石炭以外の物質やその他ハロゲン分析は別途お問い合わせ下さい。